発達障害の理解を深めましょう！

（ねらい）発達障害の特性があると思われる児童・生徒について、何に困っているのかを考え、それらを軽減するための指導や支援の具体的な方法についての理解を深める。

**【演習①】**

リーフレットにある事例Ａ～Ｆについて、担任の話を参考に、児童・生徒が何に困っているのか、また、どのような指導や支援があるとそれらの困りを軽減できるか、考えてみましょう。

事例Ａ

（Ａさんの担任）

次の授業は、体育です。先週まで体育はグラウンドで行っていましたが、急に雨が降ってきたため「雨なので、体育は体育館に変更です」と伝えました。すると、Aさんは「なぜ、グラウンドではないのか」と言い、「雨に濡れて風邪をひくから」と伝えても、Ａさんは動こうとしません。

Ａさんの困りを軽減するための指導や支援方法

Ａさんが困っていること

事例Ｂ

（Ｂさんの担任）

Ｂさんは、文字を書くことに時間が掛かります。板書では、他の子どもと比べてもかなり時間が掛かってしまい、ノート提出のときには途中までしか書けていないこともあります。授業には真面目に取り組んでいますが、途中でどこをやっているのか、分からなくなってしまうことがあります。

Bさんの困りを軽減するための指導や支援方法

Bさんが困っていること

事例C

（Cさんの担任）

Ｃさんが、宿題を忘れてきました。Ｃさんは、宿題以外の忘れ物もとても多いです。昨日の下校時、「宿題忘れないでね」と言葉を掛けたのですが、今日も忘れてしまったようです。「何で忘れたの？」と聞きましたが、困った顔をして「次は気を付けます」と言っていました。

Cさんの困りを軽減するための指導や支援方法

Cさんが困っていること

事例Ｄ

（Ｄさんの担任）

Ｄさんは、教室の中で時々耳を押さえています。教室はそれほど騒がしくありませんが、今日も授業を始めるときに耳を押さえていたので、少し大きめの声で、今から始めることやページ数などを伝えました。

Dさんの困りを軽減するための指導や支援方法

Dさんが困っていること

事例Ｅ

（Ｅさんの担任）

下校前に、配付プリントが追加されることになりました。早めに下校の支度ができていたＥさんに「Ｅさん、クラスのプリント棚を見てきてください」とお願いしました。しばらくして戻ってきたＥさんは、プリントを持っていません。「なぜ、プリントを持ってきてくれなかったの？」と聞くと、Ｅさんは「プリント棚は、見てきました」と言い、とても困った顔をしていました。

Eさんの困りを軽減するための指導や支援方法

Eさんが困っていること

事例Ｆ

（Ｆさんの担任）

Ｆさんは、質問の途中で答えを言ってしまうことがよくあります。「まだ、考えている人がいます」とか「最後まで聞いてから答えてください」と言っても、待つことができません。また、手足をそわそわ動かしたり、机や椅子をガタガタ動かしたりすることも多いので、「静かにしてください」といつも注意しています。

Fさんの困りを軽減するための指導や支援方法

Fさんが困っていること

**【演習②】**

演習①で考えたことを、次の視点で共有してみましょう。

 　・児童・生徒の困りや、困りを軽減するための指導や支援方法について

　　・発達障害のある児童・生徒への今後の指導・支援の仕方について、気付いたことや考えたこと

参考👉 https://www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/tokubetu/material/1340250\_00004.htm

（障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～）